

競技注意事項

1 競技規則について

本大会は2026年度日本陸上競技連盟規則および本大会申し合わせ事項に基づいて行う。特に注意をいただきたい項目は以下の通り。

(1) シューズについて

- ① シューズとは、スパイク、ノンスパイクシューズを含むものである。
- ② トラック・フィールドすべての種目について、ソールの厚さは20mm以下とする。競歩については40mm以下とする。ただし、サークルを使用する投てき種目についてはその限りではない。
- ③ スパイクシューズのピンの長さは9mm以下とする。ただし、走高跳、やり投においては、12mm以下とする。ピンの数は11本以内とする。

(2) 助力について

- ① 助力については、日本陸連競技規則 TR6 に則る。
- ② 主催者が指定したコーチングエリア以外での助力は禁止とする。メインスタンドからビデオ等を吊り下げて競技者に渡すことによる助言は認めるが、主催者が危険と判断した場合は中止を求められることがある。また、競技者が視聴のため当該エリアから離脱するような行為、文書をもって連絡することは認めない。競技者はビデオ・ラジオ・CD・MD・トランシーバー・携帯電話もしくは類似の機器などを競技場内に持ち込むことはできない。

(3) イエローカード（YC）について

- ① WA競技規則CR18.5の規定により、TR6、16.5、17.14、17.15.4、25.5、25.19、に違反があった競技者やリレーチームにYCを提示する。同一種目で2回目のYCの提示を受けた競技者は、当該種目を失格とする。ただし、YCの累積は当該種目のみに適用するものとする。

(4) リレー競技について

- ① オーダーは、各ラウンドともプログラム添付のオーダー用紙に記入し、招集完了時刻の1時間前までに招集所に提出すること。提出が遅れたチームはその競技種目に出場できない。
- ② リレーに出場するチームは、同一系統のユニフォームを着用すること。
- ③ リレーチームの編成メンバーについては、日本陸連競技規則 TR24.10 に則る。

2 練習について

- (1) ① 本競技場での練習は、両日とも8:30までとする。それ以降の練習は補助競技場を利用すること。補助競技場での跳躍・投てき練習は禁止する。ただし、助走練習や用具を持たないターン練習は可とする。

② 競技終了後は補助競技場使用した備え付け器具の片付けにご協力ください。

3 選手招集について

- (1) 選手招集所は、第4ゲート付近のスタンド下器具庫内付近に設ける。
- (2) プログラム記載の招集開始時刻までに招集所に集合すること。招集開始時刻より点呼を開始する。その際、競技者本人がアスリートビブス・スパイク等の確認を受けること。
- (3) 招集所から競技場所への移動は、係員の誘導に従うこと。
- (4) 招集完了時刻に遅れた者はその競技種目に出場できない。ただし、他の種目に出場していて招集時刻に間に合わない場合は、1種目目の招集完了時刻までに競技者係（第4ゲート付近のスタンド下室内走路）にその旨を申し出て役員の指示に従うこと。
- (5) 混成競技は第1日目、第2日目とも最初の競技種目について、競技日程記載の時刻に招集を行う。ただし、以降の種目については混成競技役員の指示に従い、混成控室に集合すること。
- (6) 欠場をする場合は、招集完了時刻までに「欠場届」に必要事項を記入し、第4コーナー付近のスタンド下室内走路の競技者係に提出すること。ただし、事前にわかっている場合は、「欠場届(団体用)」に記入の上、該当種目実施日の8時まで上記と同場所に提出すること。

4 アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスは、選手登録時に配布されたものを、そのままの形でユニフォームの胸部と背部につけること。ただし、跳躍種目に出場する選手は、胸部または背部のいずれか一方でよい。
- (2)トラック競技に出場する選手は選手登録時に配布されている腰ナンバーカードを右腰につけること。ただし、800m以上の距離の種目と4×400mリレーの第4走者については、招集時に配布される通し番号の腰ナンバーカードをつけること。
- (3) 今大会は、大学生についてのみ前年度学連登録ナンバーの使用を認める。

5 競技運営上の注意点について

- (1) 投擲種目およびハードル種目は、全て一般の重量および高さ／インターバルで実施する。
- (2) 男子5000mについては、3000mを11分以内に通過できない場合、その段階でタイムオーバーとなり失格とする。失格した選手は速やかに走路外へ出ること。
- (3) 5000m競歩については、35分以内に最終周回に入れない場合、その段階でタイムオーバーとなり失格とする。
- (4) 走幅跳・三段跳と投てき種目では、審判長の判断によりパスラインを設けることがある。
- (5) 走幅跳・男子三段跳は2ピットに分けて実施する。三段跳の踏切板の位置は、審判長の判断による。
- (6) 走高跳・棒高跳でのバーの上げ方は次の通りとする。ただし、グラウンド・コンディションにより変更する場合がある。

種目	性別	練習		バーのあげ方								
走高跳	男子	1.65	1.80	1.70	1.75	1.80	1.85	1.90	1.95	1.98	2.01	…
	混成男	1.35	1.60	1.40	1.43	1.46	1.49	1.52	1.55	1.58	1.61	…
	女子	1.35	1.50	1.40	1.45	1.50	1.55	1.58	1.61	1.64	………	
	混成女	1.10	1.30	1.15	1.18	1.21	1.24	1.27	1.30	1.33	………	
棒高跳	男子 混成男	2.20	4.00	2.40	2.60	2.80	3.00	3.20	3.30	3.40	………	
	女子	2.00	2.80	2.20	2.40	2.60	2.70	2.80	2.90	………		

6 競技用器具について

- (1) 棒高跳用ポール以外の器具は、原則として会場備え付けのものを使用する。

7 表彰について

- (1) 表彰は各種目3位まで行う。各種目3位までの入賞者は成績発表後に本部前で表彰を行うので、玄関ロビーの表彰者控え室に集合し競技役員の指示に従うこと。出席できない場合は代理を立てること。
- (2) 優勝者には福井陸上競技協会より記念品が贈呈される。

8 迷惑撮影、不審者、ヘイトスピーチ等の対応について

- (1) 競技会場での選手の家族や学校関係者(生徒含む)によるカメラ・ビデオ・携帯電話等による撮影は、各団体から発行された撮影許可書を携帯する方のみ許可する。撮影時は、役員に許可書が見えるようにネームホルダーや名札入れなどを使用すること。撮影許可書を身につけていても撮影禁止エリアでの撮影はできない。スマートフォン、タブレットでの撮影はメインスタンドおよび芝スタンドで可能とする。ビデオカメラ、デジタルカメラ、一眼レフカメラなどでの撮影はメインスタンド上段からのみ可能とする。
- (2) 報道等で撮影を行う場合は、必ず事前に受付をして、主催者が用意したビブスを着用すること。
- (3) 撮影対象が競技会方針と異なると思われる場合は、記録内容の確認を求められることがある。事案によっては、警察に引き継ぐこともある。
- (4) 観戦をしている中で、競技運営に重大な支障をきたすような発言やヘイトスピーチととられる発言、看板等の掲示があった場合、または他の観戦者に迷惑を掛けていると判断した場合は退場を求める。

9 その他

- (1) 競技者の本部前の通行は禁止とする。ただし、競技役員の誘導がある場合はその限りではない。
- (2) テント設営は、補助競技場のトラック周りやメイン競技場芝スタンド裏側など、周辺の通行に支障がない箇所に限り認める。ただし、競技場と県営体育館の間の円芝生への設置は認めない。また、メインスタンドダックアウトについては、雷雨時や熱中症への対策が必要なときなどに共有のスペースとして使用するため、チームでの場所取りやテントを設営しての占有使用はご遠慮ください。
- (3) メインスタンドでの集団応援や立ちあがったの応援及びテント設営は禁止する。
- (4) 更衣室にシートを敷いての場所とりや独占は禁止する。また、更衣が終了次第すぐに退出すること。
- (5) 「のぼり」・「横断幕」の設置はメインスタンドの最上段のみ許可する。
- (6) 傘・日傘の使用については、メインスタンド上段ブロック、芝生スタンドのみ可とする。跳躍種目等の踏切付近の上段ブロックでは注意して使用すること。補助競技場では雨天時以外は傘の使用を禁止する。雨天時に関しては、通行や観戦、競技の妨げにならないようにすること。